

9月24日(月)

統合小学校・学校給食共同調理所の 建設工事が着工となりました。

○統合小学校建設の経緯

町では、少子高齢化、人口減少の影響を受け、鶴田小学校を除く5小学校では、やむなく複式による学級編制になるなど、適正集団による教育活動や教育環境の確保が難しい状況となっていました。そのため、平成28年1月に「鶴田町立小学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」を策定。町内にある鶴田小学校、菖蒲川小学校、梅沢小学校、胡桃館小学校、富士見小学校、水元中央小学校の全6校を1校に統合することを決定しました。これを受け、平成28年度には基本設計、平成29年度には実施設計を行い、今回の建設工事に至っており、平成32年4月の開校を目指しています。

○学校給食共同調理所の経緯

統合小学校の建設予定地内にある町の学校給食共同調理所は、昭和43年に建築されて以来、

町の小・中学校の10000人を超える児童・生徒に給食を提供してきました。しかし、築50年が経過したことから老朽化が進み、修繕をはじめとする維持管理に多大な費用を負担しなければいけない状況にあることから、統合小学校の建設と併せて

新築するものです。

建設工事に係る

安全祈願祭が行われました

9月17日(月)、統合小学校・学校給食共同調理所の建設工事に係る安全祈願祭が建設予定地で行われました。安全祈願祭には、相川町長や工事関係者ら約60人が参加し、工事の安全を祈願しました。

相川町長は、「少子高齢化や人口減少の影響により、子どもたちの教育環境の整備が非常に重要になっている。自然エネルギーを積極的に取り入れ、快適な学校生活を送ってもらえるように努めたい。学校給食共同調理所については、安心・安全な学校給食を子どもたちに提供していきたい。また、校舎として学校給食共同調理所は、停電時の炊き出し対応など、災害にも対応した施設として整備していきたい」とあいさつ。

また、工事関係者を代表して、株式会社伊藤鋳業の増田教正社長が、「これまで培ってきた知識や経験を十二分に活かして、子どもたちにとって快適な学校生活を送れるような学校を作りたい」と建設工事へ向けた決意を述べました。

統合小学校

統合小学校の構造は鉄筋コンクリート造（3階建て+屋上）。普通教室が18室、特別支援教室6室、各種特別教室が11室、そのほか多目的スペースが6カ所、250人収容可能な統合記念ホール（ランチルーム）1室、個別指導室3室などを整備。また、教室に地熱、冷暖房設備を整備するほか、非常用発電設備、エレベーターなどを整備。工期は平成32年2月28日。

特徴

・デザイン

ガラスを多用した明るく開放的で透明感のあるデザインで、校舎の一部は吹き抜け式で自然光を多く取り入れる造り

・機能性

小学校として通常時において円滑に機能することはもちろんのこと、災害時における公共施設の役割を考え建物自体が大地震や水害などに対してより安全であり、地域住民の避難拠点として機能する施設とする

・経済性

自然採光、地中熱などの自然エネルギーを積極的に取り入れることで、エネルギー消費の低減が図られる施設とする

・安全快適性

夏季の暑さや冬期の季節風、凍害、積雪、落雪などを十分考慮しつつ、積極的に自然エネルギーを建物内部に取り入れ、快適な環境作りを行う。また、地震や火災、強風など防災対策を十分考慮した施設とする

学校給食共同調理所

学校給食共同調理所の構造は鉄骨造（2階建て）。工期は平成31年6月30日。

特徴

厨房設備機器一式は炊飯機類を除き、オール電化で整備（炊飯機については、災害時でも炊飯できるよう、ガス式を採用）

1日最大1,100食の調理が可能。統合小学校へは、校舎2階から給食を搬入し、エレベータで各階に配膳する

